



1 東ティモールの紹介

東ティモールに到着し、早くも1ヶ月が経とうとしています。
ここは私がイメージしていた途上国とは違い、モノは輸入品で何でも揃います。でも輸入品は日本と物価が変わりません。
今回は私がこれまでに感じた首都ディリについて紹介します。



スマホを向けると喜んでポーズ

(1) 人

現地の方は優しく親切で、笑顔で話ししてしてくれる人が多いです。途上国でよく聞く物乞いもありません。この笑顔を見ていると、ここで暮らせることは幸せだと感じます。

(2) 生活

服装は、とても暑いため、半袖短パンで歩きたいところですが、デング熱を媒介する蚊や狂犬病対策のため、長ズボンを履くように勧められています。現地の方も半袖長ズボンの方が多ですが、日差しが強いため、長袖を着ている方も多です。

水道からは地下水がでますが、飲み水は買って飲んでいきます。ホームステイをしている先輩隊員の家の蛇口からはオタマジャクシが出たそうです。

(3) まち並み

ショッピングモールや朝夕の通勤ラッシュなど都会的な部分もありますが、大通りを少し離れると平屋のトタン屋根が立ち並び、道や川にゴミがたくさん捨てられています。

首都ディリは海に面しており、目の前に海が広がっている環境は海の近くに住んだことがない私にとって憧れの環境です。



朝の通勤ラッシュと
ショッピングモール



未舗装の道路、
捨てられたゴミ(左側)



自然を相手に元気に遊ぶ
子ども達

(4) 言語

現地語のテトゥン語が一般的に使われています。その他にインドネシア語、英語、ポルトガル語も話せる人が多いです。現地の方は、インドネシアのテレビ放送でインドネシア語を覚え、学校でポルトガル語と英語を学んでいるようです。そんな語学の堪能な現地の方から語学習得方法のアドバイスは何度も話して練習することだそうです。

2 これまで活動

語学学校までは、マイクロレット(※)と呼ばれる乗り合いバスで向かいます。DITという大学の傍らを借りて、英語とインドネシア語を駆使して勉強しています。私も含め5人の同期隊員が2クラスに分かれ、そこにオーストラリア、イギリス人などのメンバーも加わり、少数制で国際色豊かです。



語学学校にて



マイクロレット、乗車人数が多くなると男性は立ち乗り

※マイクロレット

25セントの乗合バス。人差し指で道路をさせば止まり、開きっぱなしの扉から乗り込む。降りたいところに来たら、コインで車内のバーや音の出そうなところを叩いて合図して降りる。

3 唯一の観光地へ

(1) タイスマーケット



色鮮やかなタイス



作っている風景

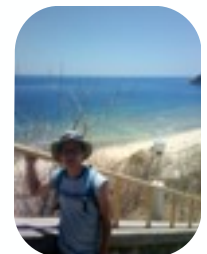
首都ディリの中心地にあり、約30の店舗が立ち並びます。東ティモールの伝統工芸品で地域によっても様々な色合いのタイスと呼ばれる織物が売られています。すべてが手作品で逸品モノなのが魅力です。

(2) クリストレイ

観光名所の少ない東ティモールの唯一の観光地と呼ばれるクリストレイに行ってきました。世界第2位の大きさのキリスト像です。近辺の海はとても綺麗で、少し潜ると、サンゴ礁や色鮮やかな魚がたくさんいました。



クリストレイ
の大きさは約30m



綺麗な海と約1か月の
真っ黒に焼けた私

◆東ティモールの概要◆



- 面積：約15,000km²(岩手県とほぼ同じ)
- 人口：118万人、首都ディリは約27万人
- 宗教：国民の99%がキリスト教(大半がローマ・カトリック)
- 通貨：アメリカドル、コインは独自のものを使用
(100セントボ=1ドル)
- 歴史：ポルトガルの植民地後、インドネシアが制圧。1999年の住民投票でインドネシアからの分離・独立を選択し、2002年に独立国家となりアジアで一番若い国と呼ばれており、現在、ASEANへの加盟を目指している。《第1号終わり》